

2025年6月13日交野山周辺で観察した植物

作：岡田

ササユリ（笹百合）ユリ科ユリ属＊花期＝6～7月

名前の由来＝葉が笹の葉に似ているので、「ユリ」は風に吹かれて花がゆらゆらすることから「ユリ（揺り）」となった。別の説では、ユリ属の一般名称である朝鮮語の「nari」が転じた説がある。〔百合〕は女性同士の同性愛のカップルを指す隠語でもあります、いわゆる百合族）ササユリは日本固有の球根植物です、中部地方～九州に分布、種子で繁殖して球根となり開花するまで最低6～7年かかると言われています。森から木を伐りだすことが少なくなったことによりササユリ好む日当たり環境が異なって来たことから減少傾向にあります、更に鹿が葉や茎を食べてしまうので減少が進んでいる。ササユリの鱗茎（百合根）は「百合（ひやくごう）」と呼ばれて



オカタツナミソウ（丘立浪草）シソ科タツナミソウ属＊花期＝5～6月

名前の由来＝「オカ」は丘をさす、「タツナミ」は花が一方向に向いている様子が波頭を思わせるから。＊**花言葉**＝私の命捧げます・精神の安定。本州～九州の丘陵や林縁の草地などに生える多年草、茎は赤味を帯び葉が数枚対生でさきは丸味を帯び心形、縁に鈍い鋸歯がある、茎の先に一方向に偏った花をつける。色は、青紫色、又は、淡紅紫色、まれに白色もある。古くは生薬として使われていた。去風（風邪の症状を治す）活血（血の巡りを改善）解熱、鎮痛剤、強壮剤、等々、現在では使われていない。



ヤマボウシ（山帽子）ミズキ科ミズキ属＊花期＝5～7月

名前の由来＝花の形が坊主頭に似ていることから、中央の球状の花を坊主頭に見立て、4枚の白い花びらに見える総苞片を白の頭巾に例えています。この名前は比叡山延暦寺の山法師に由来しています。＊**花言葉**＝友情。この花言葉は東京市長であった尾崎弴堂が米国に桜の苗100本送った返礼で米国からハナミズキ（アメリカヤマボウシ）100本送られてきた、その友情の証を同じ仲間のヤマボウシの花言葉、友情になった。ハナミズキの実は食べませんが、「ヤマボウシ」の実は熟すと甘くて美味しいです、生食は皮を剥いて食べます。甘いのでジャムにしても、果実酒にしても良いです。白い花卉に見える総苞ピンク色のもまれにあります、ハナミズキとの違いは、花の咲く時期が違います、ハナミズキは葉の出る前に花が咲く、ヤマボウシは葉が出てから花が咲く、ハナミズキの花卉の先は尖らなく丸味、ヤマボウシの花卉は咲が尖る。本当の花は中央の丸いもの。



ツクバネウツギ（衝羽根空木）スイカズラ科ツクバネウツギ属花期5～6月

名前の由来＝木の姿がウツギに似ており、プロペラの様な萼片を残した実を羽根つきの衝羽根（ツクバネ）に例えたものである。＊**花言葉**＝長い友情。静岡、福井、以西の本州四国、九州に分布する落葉低木、日本固有種。林縁や明るい二次林に生育、樹皮はほとんど無毛、2年枝は灰色、葉は鋸歯のあるのと全縁とある、葉腋や裏面の脈腋に毛がある。枝先に白色から淡黄色の漏斗状の花を2輪ずつ咲かせる。花の形状は歩道の分離帯に植えられている「アベリア」に似ている。花冠は長さ2～3cmで細い花筒から急に鐘状に広がる、先はやや唇状で上唇は2裂、下唇は3裂する。花が咲き終わった後、5枚の萼片のみが紅紫色になり残る。この形状が名前のツクバネの由来となっている。



イタドリ（虎杖）タデ科ソバカズラ属＊花期＝7～10月・雌雄異株

名前の由来＝傷薬として若葉を揉んでつけると血が止まって痛みが和らげるのに役立つことから「痛み取」が転訛して「イタドリ」となったのが通説となっている。平安時代の本草書「本草和名」（918年）にはイタドリの名前が記されている。漢字（漢名）では「虎杖」と書き軽くて丈夫なイタドリの茎が杖に使われ、虎斑模様から「虎杖（こじょう）」と呼ばれたことによる。春4～5月頃、紅紫色でタケノコ状の新芽、若い茎は柔らかく「スカンボ」と称して食用になる、皮を剥き山菜とする、若葉も食用になる、新芽は折り取るとポコッと小気味良い音がして太い物ほど味が良く生で食べられる珍味だと形容される、おじると強い酸味がある、シュウ酸で大量摂取は下痢を起こす原因になり健康への悪影響も考えられるので注意が必要。根は種々な薬効があり虎杖根（こじょうこん）という生薬で使われている。＊**花言葉**＝回復、忍耐



その他、道端や山道には、トウグサ、ブタナ、トゲジシャ、フユイチゴ、クサイチゴ、ヘビイチゴ、ウツギ、コナスビ、オッタチカタバミ、ドクダミ、ムラサキニガナ、ハナニガナ、等々多くの植物あった

